

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度を確保しつつ、充実感等が得られる授業になるよう、それぞれの先生方が意識しながら実践していく。また、その成果を共有する場を設定する必要があるのである。そのためには授業交流週間や教科会を積極的に利用していく必要がある。 ・授業交流週間を行っている理由を教職員全体で考えてみる機会を持っていただき、今後も継続するが新しい方策を実施するか検討していく。 <p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する生徒の意欲をかき立てる方策については、教職員全員で検討をする必要がある。少子化により大学入試が大幅に緩和されるなかで、生徒に対して進路実現のための努力の必要性をいかに認識させるかが近年の大きな課題だといえる。 かつては「行ける大学」へ安易に進路志望を下げるのが課題とされていたが、近年の生徒は自己肯定感が高く、よく言えば粘り強いが、一方で模試等のデータによる情報を自分事として受け止める力が弱い、段階を経て適切に進路実現に必要な学力をつけさせるためには、進路指導はどうあるべきかについて立ち止まって考える時に来ていると考える。 総合型選抜や学校推薦型選抜が大学入試の半分以上を占めるようになってきた時代において、入試がゴールではなく3年間の教育課程を全うすることが本校に入学した目的であるということを生徒全員に認識させる必要がある。 <p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力もいただきながら、基本的な生活習慣の確立の実現に向けて指導を行ったが、残念ながら各学年共に遅刻・欠席の述べ回数は多かった。次年度は、遅刻者の数をより減らせるよう保護者と連携を図りながら、落ち着いた学校生活の実現をめざす。
		[教務課]	[教務課]	[教務課]	
		[進学課]	[進学課]	[進学課]	
		[学年]	[学年]	[学年]	
		(下位組織レベル)	活動計画		
		[教務課]	[教務課]	[教務課]	
		[進学課]	[進学課]	[進学課]	
		[学年]	[学年]	[学年]	
		[教務課]	[教務課]	[教務課]	
		[進学課]	[進学課]	[進学課]	

重点課題	重点目標	自己評価		学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>〈学習方法について〉 ・ノートに本文を写す勉強をしているが、時間の無駄だと思う。スベルが早く書けるようになるだけで何の益もない。日本語訳を書くのも意味はない。やったことがないのでどうしたらいいかわからない。意外となぜしないのかというところが大事だ。</p> <p>1) 国語 基本的な知識の習得のため基本事項の確認を徹底したい。その上で思考力を問う実践を工夫し、授業の中で生徒たちに取り組ませていく。</p> <p>2) 地歴・公民 新課程の地歴探究科目の3年次履修が、旧課程と比べて1単位減となる。総合科目との繋がりを持たせることで1単位減をカバーするとともに、受験対策を行う。放課後や長期休業時の希望制演習問題補習を充実させる。</p> <p>3) 数学 新しい教育課程が導入されたが、2年生からの進捗や、よりよい観点での評価方法の研究を今後も続ける必要がある。</p> <p>4) 理科 思考力や判断力を育成する機会として、実験・観察の充実は欠くことができない。実験・観察の機会をより充実させることは今後も検討していく必要がある。今後、実験・観察教材の共有やデータベース化を進めていきたい。</p> <p>5) 英語 観点別評価の基準を明確にし、生徒の学力をいかに正確に評価していくか、その方法や評価規準について十分精査し、生徒の学力伸長に取り組んでいきたい。</p>
	[教科]	[教科]	<p>1) 国語(評価B) ・課題の提出率ははや目標に届かなかった。課題や小テストに取り組む意義を授業の中で強調したい。</p> <p>2) 地歴・公民(評価B) ・目標値に達していない項目があるが、概ね目標を達成できた。タブレットの不具合で計画が変更になったものもあるが、次年度もICT活用方法について研究し、実践したい。</p> <p>3) 数学(評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も検討する必要がある。</p> <p>4) 理科(評価B) ・目標値を上回ることができたので評価としては良いと考える。しかし、実験・観察の実施回数については教員・講座間で差異があるので、これを改善していける目標設定に必要がある。また、実験・観察後の考察の記入やその評価方法については検証の必要がある。</p> <p>5) 英語(評価B) ・課題の提出率も小テストの得点も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着をはかる必要がある。</p>		
	1) 国語	1) 国語			
	①月2回の課題提出率90%以上。(R4 90%) ②小テストの月2回以上の実施と合格率80%以上。(R4 73%)	①課題提出率は89%であった。 ②小テストの正答率は80%であった。			
	2) 地歴・公民	2) 地歴・公民			
	①授業評価による授業満足度を85%以上。(R4 地歴86% 公民77%) ②Classiを活用し、1学年地理総合の作図課題等を提出させる(年3回以上)、小テストをWebテストで実施する。(R4 課題提出 6回) ③予習復習プリント(提出課題)提出率95%以上。(R4 96%)	①授業満足度は地歴93.0%、公民84.4%であった。 ②ICT活用による地理総合作図実習課題を3回提出させた。小テストをWebでの配信を3回試みた(実施は不具合等で変更)。 ③予習復習プリントなどの(提出課題)提出率は96%であった。			
	3) 数学	3) 数学			
	①週末課題プリント提出率90%以上。(R4 81.5%) ②小テストの実施と再テスト合格率95%以上。(R4 88.0%)	①週末課題の提出率は84.1%で目標を達成できなかった。 ②欠席のため受験できていない場合を除くと、再テストも含めた合格率は95%であった。			
	4) 理科	4) 理科			
	①各科目で実験・観察を入れた授業を年間4回以上実施する。(R4 9.1回) ②長期休業中の課題提出率85%以上。(R4 81%)	①実験・観察の実施回数は10.7回であった。 ②課題提出率は88.1%であった。			
5) 英語	5) 英語				
①家庭学習用課題の提出率85%以上。(R4 82%) ②語彙力・文法等の小テスト平均正答率70%以上。(R4 67%)	①家庭学習課題の提出率は82%であった。 ②語彙力・文法の小テストの平均正答率は65%であった。				
(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
[教科]	[教科]	[教科]			
○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善					
1) 国語	1) 国語	1) 国語			
・言語に関する知識・理解の深化 ・思考を深める力の育成 ・読む・書く力の向上	①各単元・授業及び定期考査で思考を問う発問を課す。 ②評価のフィードバックを行う。 ③観点別評価を行う。	①授業や定期考査の中で思考を問う問題を多数設定し、思考力を高めるよう発問を工夫した。 ②ノートや課題点検を実施し、その結果を授業内容に反映させた。 ③観点ごとに適切な評価を行った。			
2) 地歴・公民	2) 地歴・公民	2) 地歴・公民			
・基礎基本の定着 ・思考力を深める力の育成 ・技能を習得させる活動の実施	①予習復習プリント(提出課題)を実施する。 ②共通テスト対策に取り組ませ、思考力を育成する。 ③作図ソフトやデータソフトを活用して技能を習得させる。	①予習復習プリントや長期休業中課題を毎学期計7回以上提出させた。 ②共通テスト対策として、火曜日の放課後に補習を実施した。 ③地理総合の授業において、1学期後半に地理院地図やICTソフトを活用し、作図実習を行った。			
3) 数学	3) 数学	3) 数学			
・基本的な概念、原理・法則の体系的な理解 ・数学的な表現を用いた事象の考察の徹底	①週末課題プリントの改良及び配付とフィードバック ②小テストの実施とフィードバック	①計画どおり実施した。 ②小テストでは基本事項の復習を重視し、再テストの実施方法を工夫するなどした。			
4) 理科	4) 理科	4) 理科			
・論理的思考力、表現力の育成 ・基礎・基本の定着	①実験・観察のレポートやワークシートに考察を記入させる。 ②長期休業中の課題を与え、未提出者には催促を行う。	①計画通り実施したが、効果の検証が必要である。 ②計画的に課題設定し、基礎・基本が定着するように工夫した。			
5) 英語	5) 英語	5) 英語			
・基礎・基本事項の定着 ・学習意欲を高めるための授業内容の精選	①語彙・文法・読解等の課題を与え、事後指導まで行う。 ②適切な場面でのICT教材の活用や、生徒の興味を喚起する教材開発を行う。また定期的な小テストを実施し、語彙力および文法力の定着を図る。	①学年ごとに計画を立て、課題や小テストが効果的になるように工夫しながら実行した。 ②教科書や副教材の内容を基に、タブレットを用いた授業や課題提出を積極的に取り入れた。			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
		<p>[進学課]</p> <p>1)学習や進路に対する意識を喚起するための集会や講演会を各学年で学期に1回以上実施する。 2)共通テスト出願率70%以上を目指す。(R4 出願率70%)</p> <p>[就職課]</p> <p>1)公務員説明会を生徒の希望職種ごとに各1回以上開催すると共に、校外での説明会に積極的に参加させる。 2)2年生対象に本校主催のインターンシップを実施し、進路決定に関する意識の向上のため5名以上(R4はコロナ禍のため未実施)の参加者を旨とする。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1)総合的な探究の時間の生徒の満足度78%以上。(R4 77.8%) 2)理数科学科の生徒の各活動に対する満足度86%以上。(R4 85.5%) 3)キャリア・パスポートを年間5回生徒に記入・整理させる。(R4 5回記入:57.1%)</p>	<p>[進学課]</p> <p>1)文理選択や大学選びについて、外部講師による講演とワークショップを実施したほか、校外模試の結果を分析し、次回へ向けてのモチベーションを上げるための講演会なども行い、生徒の学習意欲を喚起する取組を行った。 2)大学入学共通テストへの出願率は71.5%でわずかながら昨年を上回った。</p> <p>[就職課]</p> <p>1)生徒の希望状況に合わせ、警察官、刑務官、(各1回)、自衛官(随時複数回)の校内説明会を実施した。また校外で実施された各種説明会については、希望者各自でそれぞれの説明会に参加する方法をとった。 2)県関係事業所でのインターンシップ参加の募集を行ったが、参加者は0名であった。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1)「総合的な探究の時間」は主体的学習意欲の向上に役立っている」のアンケートに対する生徒の肯定的回答は65%で、昨年度を下回った。わかりやすい成果を得られないことが要因か。 2)理数科学科の教育活動全般に対する生徒の満足度は98.9%と昨年度を上回り、高い割合となった。充実した活動ができたことを生徒が実感できている。 3)キャリア・パスポートを生徒に記入・整理させたのは4回が30.4%、3回が17.4%であった(5回目は3月に実施予定)。</p>	<p>[進学課] (評価A)</p> <p>・これまであまり行ってこなかった外部講師による進路講演を行ったり、校外模試への動機付けを行うために模試の結果の先生方がコツコツとするしかない。継続的な指導しかない。</p> <p>・早期に生徒、保護者に対して卒業までのタイムスケジュールを説明する。文理選択に関しても、ゆくりと受験までのスパンを考えて選択する。本当にやりたいことを考え、早い時期からかかるほうがよい。考えずにとりあえず無理系のようなものを作らないことだ。</p> <p>・夢がないと踏み出しにくい。本来は小中学校で夢を見つけ、高校で深めていく。一年生からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えた。</p> <p>・生徒の希望する業種への企業訪問や連携を行い、必要な求人確保することができた。 ・就職指導室の環境を整え、各種説明会、自主学習や面接練習として活用することができた。</p> <p>[就職課] (評価B)</p> <p>・学年集会での就職指導や公務員説明会を行うことで、早期からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えた。</p> <p>・入試の仕組みが複雑になり、説明会でも理解しづらくなっている。保護者が理解できて子どもが理解できないとだめだ。どう伝えていけるかできている高校と後手に回っている高校とは違うのかと思う。</p> <p>[キャリア形成支援課] (評価B)</p> <p>・総合的な探究の時間については、自分事としてしっかり取り組むことで、経験したことが今後の人生に役立つことを丁寧に説明する必要がある。養われた力を実感するには長い目で見る必要があるのかも。理数科学科の教育活動について、生徒がその意義を理解して前向きに取り組んでいく。 ・キャリア・パスポートについては生徒教員ともに忙しい学校生活の中で、記録する時間を割かなくてはならないが、それが役に立つ機会にあまり恵まれないことが、記入・整理を生徒にさせる時間の確保につながるのではないかと推察する。</p>	<p>(進路指導について)</p> <p>・大学選びについて外部講師の話を聞けるというのはいい、効果があるなら学校側の粘り強くやればよい。特効薬はないので先生方がコツコツとするしかない。継続的な指導しかない。</p> <p>・早期に生徒、保護者に対して卒業までのタイムスケジュールを説明する。文理選択に関しても、ゆくりと受験までのスパンを考えて選択する。本当にやりたいことを考え、早い時期からかかるほうがよい。考えずにとりあえず無理系のようなものを作らないことだ。</p> <p>・夢がないと踏み出しにくい。本来は小中学校で夢を見つけ、高校で深めていく。一年生からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えた。</p> <p>・入試の仕組みが複雑になり、説明会でも理解しづらくなっている。保護者が理解できて子どもが理解できないとだめだ。どう伝えていけるかできている高校と後手に回っている高校とは違うのかと思う。</p> <p>(インターンシップについて)</p> <p>・企業の方でも高校からインターンシップの話がある。今年は参加者がいなかったが、自由参加で興味はなかったと言うことが。企業側はどういう生徒を受け入れたらいいか。少し残念に感じた。</p> <p>(探究活動について)</p> <p>・探究活動は答えがないものなので、先行研究をなぞるのはどうか。思考力が落ちてしまわないか気になる。</p>	<p>[進学課]</p> <p>・外部講師の活用については、今後も積極的に取り入れ生徒の進路実現のための情報収集に役立てる。 ・保護者が求める情報を適切に提供できるような手段について検討する。</p> <p>[就職課]</p> <p>・できる限り早期に生徒の特性や希望状況を把握し、必要な求人・情報を確保する。 ・保護者に対してでもできる限り多くの情報を提供し、連携を図りながら希望職種・事業所等のミスマッチをなくす。 ・学年集会や進路保護者会を通して、就職に対する早期からの意識付けを図る。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>・総合的な探究の時間については、今年度は生徒と教員の負担感を軽減し、かつ充実した内容となるよう改善した。しかし、すぐ達成感を得られるような活動ではないため、細やかな振り返りや指導者の丁寧な確認が必要なのかも。再年度に向け、生徒が探究活動に取り組むやすいように、すでに改善計画を進めている。 ・理数科学科の県外研修は、県内では触れられない最先端の科学技術等を見聞できる機会として、生徒に大変好評の研修である。来年度も同様の計画で継続して実施したい。利用する教育事業等については来年度検討していく計画である。 ・キャリア・パスポートについては、その学校生活での位置づけと効用について生徒へ繰り返し説明をする。また、生徒の記録について、昨年度は学校行事の中に位置づけ、今年度はClassiへの記入形式も取り入れた。キャリア・パスポートの利用の定着に向けて継続して取り組み、教員の利便性を向上させられるよう工夫したい。</p>
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進		<p>[進学課]</p> <p>1)進路選択に関する生徒および保護者への情報提供を充実させる。 2)全職員が一丸となった組織的かつ手厚い進路指導を継続する。</p> <p>[就職課]</p> <p>1)就職活動の情報源として、各種説明会や職場見学に加えてインターネットの活用を図る。 2)生徒のキャリア教育推進のための校外体験活動を推進する。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1)2) 将来への展望を持たせることにより、目標設定や社会に参画する意識を高め、社会的・職業的な自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成する。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1)本年度の進路保護者会は、一部校内からのZoomによる発信も利用しながら、すべての学年において対面を実施した。 2)大学や教育関連企業からの進路情報はその殆どが紙ベースであるため、教室等への掲示はできたが、デジタルツールの利用はわずかにとどまった。 3)本年度も学年を超えて、校内の多くの教職員が生徒の進路実現のために惜しみなく協力をしてくださった。</p> <p>[就職課]</p> <p>1)警察官・刑務官は各1回、自衛官は年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 1学期は3年生が校外公務員模試に参加、2学期は1、2年生対象に校内で公務員模試を3回実施した。 2)ハローワークの高校向けインターネット求人情報を活用し、県外就職希望者に情報提供することができた。 3)県関係事業所へのインターンシップ参加募集をしたが、参加希望者がいなかった。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1)2)総合的な探究の時間 ①2年生では、多くのグループがフィールドワークや幼小中学校への出前授業等、生徒の探究活動や主体的な取り組みを活発に行うことができた。 ②普通科は1・2年生とも2回、理数科学科は1年生は1回、2年生は2回生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、発表会を開催した。生徒が取り組むそれぞれの専門分野の外部講師を招聘することにより、生徒は丁寧で確かな助言・指導を得られた。 ③「キャリアパスポートの日」には担当者が職員朝会で担任に呼びかけ、今年度からClassiへの記入を促すなど工夫したが、活用率は高いといえず、担任の指導によるところが大きい。</p>	<p>[キャリア形成支援課]</p> <p>・総合的な探究の時間については、自分事としてしっかり取り組むことで、経験したことが今後の人生に役立つことを丁寧に説明する必要がある。養われた力を実感するには長い目で見る必要があるのかも。理数科学科の教育活動について、生徒がその意義を理解して前向きに取り組んでいく。 ・キャリア・パスポートについては生徒教員ともに忙しい学校生活の中で、記録する時間を割かなくてはならないが、それが役に立つ機会にあまり恵まれないことが、記入・整理を生徒にさせる時間の確保につながるのではないかと推察する。</p>		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切に する心、いじめをゆるさない心の育成	(全校レベル)	<p>評価指標</p> <p>[生徒指導課]</p> <p>1)モラルや社会的マナーの指導の強化について、生徒・保護者の肯定回答を83%以上とする。 (R4 生徒 83% 保護者 81%)</p> <p>2)年間総遅刻数を前年に比べ10%削減する。 (R4 1・2学期で15%削減)</p> <p>3)軽微なものも含め、登下校時の交通事故件数を前年に比べ10%削減する。 (R4 交通事故件数 28件 1・2学期)</p> <p>4)いじめを許さない指導。いじめアンケートを年2回実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>[生徒指導課]</p> <p>1)身近な事案を取り入れながら、学校全体で指導に取り組み、意識の変革と向上に努めた。生徒・保護者の肯定回答は両者共に80%を上回ったが、保護者の肯定回答は目標に1%届かなかった。 (生徒81%、保護者79%)</p> <p>2)1・2学期の遅刻総数は1430で、昨年より増加傾向にある。</p> <p>3)通年指導やマナーアップでの呼びかけを行ったことで、事故報告数は昨年より減少した。 (1月31日現在の報告数 17件 昨年同時期 28件)</p> <p>4)いじめ調査は7月・2月の2回(予定)実施し、結果を全教職員で共有した。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[生徒指導課] (評価B)</p> <p>・モラルや社会的マナーの指導を通じて、社会規範意識の向上に努めるという点ではA評価を得ているが、基本的な生活習慣の部分で遅刻に対する意識改善が図れず、目標は達成したが、まだまだ総数が多いのが現状である。</p> <p>・交通事故については、余裕のない運転や安全確認が不十分であった等を理由とするものが多かった。</p> <p>・いじめ調査の結果を、いじめに繋がる恐れのある言動等の早期把握と対応に繋げることができた。表面化していないだけの事案があるかもしれないので、小さな変化に注意して対応していくことが必要である。</p>	<p>学校運営協議会委員の意見</p> <p>・遅刻に関しては全体指導をせず、遅刻の多い学習者に対して指導するのはどうか。怠惰や基本的な生活習慣ができていない生徒を指導するのがよいと思われる。また、遅刻総数の増減を気にするよりも、もう少し分析したらどうか。</p> <p>・いじめの調査は難しく、担任が見ると思うと正直に書かない生徒もいる。些細なことでも書いていくかどうかが大変だ。大学にも専門家がいるので相談、活用してほしい。</p> <p>・個人としてはいいのだが、集団となると問題が起きる。声を聞くのは難しいが、先生との距離感が近くなるとはなしてくれることも多い。</p> <p>・高校1年生の4月から6月頃は小学生と接触する事故が多い。入学して間もない頃は状況に慣れていないので事故が多くなる。そのあたりを指導してほしい。自転車倒れ、子ども側が加害者になるという意識をもってほしい。安全教育は大事だ。</p> <p>・ヘルメット問題は努力義務となったがなかなか解決しない。大事なものは生徒会などがやっているよと発信することだ。表向きに何か活動していることが子どもたちを変える場合がある。上手にやっている、意識し続けていると、学校としての発信方法が必要なのではないか。</p>	<p>[生徒指導課]</p> <p>・基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻防止に向けた活動を学校を挙げて行う。</p> <p>・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識・ヘルメット着用を向上させ、交通事故の防止に向けた指導を継続していく。</p> <p>・1月の生徒総会で生活委員会の名称を「生活・交通委員会」と変更することで、交通安全に対して、生徒の主体的な活動に期待している。</p> <p>・いじめに繋がる恐れのある言動を見逃さないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を密にしながら継続して行う。</p> <p>・1月の生徒総会で来年度に向け各種生徒委員会の中に「いじめ防止委員会」の設置について承認を得た。今後の活動に期待している。</p>
	(下位組織レベル)	<p>評価指標</p> <p>[生徒指導課]</p> <p>1)道徳的・社会的マナーの指導と情報モラルの育成 ①頭髮服装指導の強化 ②情報機器の安全な使用方法と個人情報管理の徹底</p> <p>2)安全教育の徹底</p> <p>3)いじめ調査アンケートの実施と活用</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[生徒指導課]</p> <p>1)身近な事案に対しても、教職員の共通理解を図った上で、迅速に生徒指導を行った。学年毎の集会等で注意喚起を行った。 ①頭髮服装検査を各学期の始業式後に実施し、改善に努めた。 (1・2・3学期) ②1年生対象に、5月にSNS関係の学年集会を開催した。</p> <p>2)毎朝の立哨を継続して行い、安全登校とマナーの呼びかけを行った。 ①交通安全教室は実施できなかった。 ②一斉指導については生徒指導課員で実施した。 ③クラス毎に交通安全に関するテーマを決めて、4月ホームルーム活動で「交通と安全」の冊子を活用して実施した。 ④長期休業前の学年集会や全校集会で、生活に関する注意喚起を行った。 ⑤各学年の生活委員の活動として、毎月20日に挨拶運動・駐輪場整備や、交通マナーの呼びかけを行った。</p> <p>3)7月・2月の調査では、問題となる事案は見られなかった。また、聞き取り調査においても問題はなかった。</p>	<p>[生徒指導課]</p> <p>1)身近な事案に対しても、教職員の共通理解を図った上で、迅速に生徒指導を行った。学年毎の集会等で注意喚起を行った。 ①頭髮服装検査を各学期の始業式後に実施し、改善に努めた。 (1・2・3学期) ②1年生対象に、5月にSNS関係の学年集会を開催した。</p> <p>2)毎朝の立哨を継続して行い、安全登校とマナーの呼びかけを行った。 ①交通安全教室は実施できなかった。 ②一斉指導については生徒指導課員で実施した。 ③クラス毎に交通安全に関するテーマを決めて、4月ホームルーム活動で「交通と安全」の冊子を活用して実施した。 ④長期休業前の学年集会や全校集会で、生活に関する注意喚起を行った。 ⑤各学年の生活委員の活動として、毎月20日に挨拶運動・駐輪場整備や、交通マナーの呼びかけを行った。</p> <p>3)7月・2月の調査では、問題となる事案は見られなかった。また、聞き取り調査においても問題はなかった。</p>	<p>学校運営協議会委員の意見</p> <p>・遅刻に関しては全体指導をせず、遅刻の多い学習者に対して指導するのはどうか。怠惰や基本的な生活習慣ができていない生徒を指導するのがよいと思われる。また、遅刻総数の増減を気にするよりも、もう少し分析したらどうか。</p> <p>・いじめの調査は難しく、担任が見ると思うと正直に書かない生徒もいる。些細なことでも書いていくかどうかが大変だ。大学にも専門家がいるので相談、活用してほしい。</p> <p>・個人としてはいいのだが、集団となると問題が起きる。声を聞くのは難しいが、先生との距離感が近くなるとはなしてくれることも多い。</p> <p>・高校1年生の4月から6月頃は小学生と接触する事故が多い。入学して間もない頃は状況に慣れていないので事故が多くなる。そのあたりを指導してほしい。自転車倒れ、子ども側が加害者になるという意識をもってほしい。安全教育は大事だ。</p> <p>・ヘルメット問題は努力義務となったがなかなか解決しない。大事なものは生徒会などがやっているよと発信することだ。表向きに何か活動していることが子どもたちを変える場合がある。上手にやっている、意識し続けていると、学校としての発信方法が必要なのではないか。</p>	<p>[生徒指導課]</p> <p>・基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻防止に向けた活動を学校を挙げて行う。</p> <p>・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識・ヘルメット着用を向上させ、交通事故の防止に向けた指導を継続していく。</p> <p>・1月の生徒総会で生活委員会の名称を「生活・交通委員会」と変更することで、交通安全に対して、生徒の主体的な活動に期待している。</p> <p>・いじめに繋がる恐れのある言動を見逃さないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を密にしながら継続して行う。</p> <p>・1月の生徒総会で来年度に向け各種生徒委員会の中に「いじめ防止委員会」の設置について承認を得た。今後の活動に期待している。</p>

重点課題	重点目標	自己評価		学校運営協議会評価		次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価		
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	学校運営協議会委員の意見	
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	(全校レベル)	<p>【人権教育課】</p> <p>1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価を81%以上にする。(R4 80.3%)</p> <p>2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答を76%以上にする。(R4 75.9%)</p> <p>3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなどを活用して計画的に実施する。(R4 おおむね良好)</p> <p>4)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施し、肯定評価を76%以上とする。(R4 75.9%)</p> <p>5)全体の人権教育研修会を年1回以上実施する。(R4 12月に実施)</p>	<p>【人権教育課】</p> <p>1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価は79.6%であった。</p> <p>2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答は82.6%であった。</p> <p>3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなど活用し、計画的に実施することができた。</p> <p>4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施し、肯定評価は82.6%だった。</p> <p>5)全体の人権教育研修会は行事の都合で今年度は3月に実施する予定である。</p>	<p>【人権教育課】(評価A)</p> <p>・人権委員会・社会問題研究会が積極的に活動し、行事や集会などで人権啓発に取り組むことができた。人権ホームルーム活動では1年次に「青い目・茶色い目」を視聴し、続いて「ハンセン病」「多様な性のある方」「アイヌについて」等様々な人権問題の解決に向けて熱心に取り組んだ。2年次では「部落の歴史」「災害と人権」「外国人の人権」、3年次では「就職差別」「結婚差別」など、身近な差別の実態について学び、考えた。5月と11月に実施された「人権集会」に関する生徒評価では肯定回答が82.6%だった。各教科における人権教育でもICTなど活用し、積極的に実施することができた。今後としては人権ホームルーム活動の主題を見直し、より生徒の実態に即したものを実施する必要があると考える。</p>	<p>・義務教育機関のいじめに対する関わりと指導のあり方は、高校になってからの関わり用は変わっていく部分がある。自分事として、集団ごととして考えなければならぬ問題を教員としてしっかりつかみ、どう子どもやクラスに返していくかは小中学校とは違ってほしい。社会に出たときにその子をよりたくましくするのはないか。</p>	<p>【人権教育課】</p> <p>・人権学習は日常生活の中にある。様々な問題を自分事として捉え、考えを深めるために人権ホームルーム活動を設定した。教師と生徒がともに学び、ともに成長する場であると考え。これからは、「誰でも居場所のある学校作り」をめざし、一層内容を精選し、取り組んでいきたい。人権集会も生徒の実態に合わせて考えていきたい。</p>
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	【人権教育課】	【人権教育課】	【人権教育課】			
1)ホームルーム活動の充実	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集め採択し、ICTを活用するなど展開を工夫する。	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集め採択し、ICTを活用するなど展開を工夫した。				
2)人権集会・人権習慣に向けての取り組みの充実	2)人権集会・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に人権問題をテーマとした展示物を作成させ、啓発に努める。	2)人権集会・城北祭・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に夏休みの宿題として人権問題をテーマとした展示物を作成させ、2学期・3学期にかけて展示し、啓発に努めた。				
	3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。	3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施した。				
	4)生徒対象の人権教育講演会を5月と11月に実施する。	4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施した。第1回人権集会は5月25日(木)、とよなか国際交流協会職員 三木幸美氏をお招きし、「私から始める私たちの多様性社会」と題して実施した。第2回人権集会は11月9日(木)、落語家 桂福点氏をお招きし、「大笑いセッションでノーマライゼーション~しょうがい者理解を広めるために」と題して実施した。				
	5)教員対象の人権教育研修会を12月に実施する。	5)全体の人権教育研修会は行事の都合で今年度は3月に実施する予定である。				

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	(全校レベル)	<p>評価指標</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動入部率の向上を目指し、生徒の自主的活動を促す。部活動を通して集団の一員として必要な協調性・責任感・連帯感などの力を身につけさせる。部活動教育貢献度を82%以上を目指す。 (R4 生徒82% 保護者79%)</p> <p>2) 生徒会・各種委員会を中心とし、生徒主体で学校行事(球技大会・学校祭・予餞会・激励会など)に取り組み、活性化を図る。生徒評価で肯定回答を85%以上を目指す。 (R4 79%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動入部率は昨年と変わらない。部活動を通して集団の一員として多くの力を身につけることができた。部活動教育貢献度は目標を達成できなかった。 (R5 生徒76% 保護者 76%)</p> <p>2) 生徒会・各種委員会は活発に活動でき、活性化が図れた。しかし、一般生徒の評価は目標を達成できなかった。 (R5 76%)</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[特別活動課] (評価B)</p> <p>・部活動に入部している生徒は多くの力を身につけることができた。より多くの生徒が部活動に所属し、学校生活を充実したものにしていきたい。 ・生徒会・各種委員会では生徒主体の活動ができ、活性化を図ることができた。このような活動が生徒全体に浸透することを期待する。</p>	<p>学校運営協議会委員の意見</p> <p>・部活動は全員入らなくても中には厳しい部活動を望んでいる生徒や楽しいことをしたい生徒もいるのでそれを受け入れる部活動であればよい。 ・これまでやりつくしたものでない部活動に入る生徒もいる。今までにない競技の楽しさを知り、頑張ったら魅力になる。新しい開拓ができる。 ・部活動はやはり何かやったほうがいいと一般社会、企業側としては思う。 ・今回、生徒総会を行ったのはすごいことだ。社会に出てから役立つと感じた。B評価になっているが、0から1にするのは大変であり、なかったものが復活したのはもっと評価が高くていいと感じた。来年の生徒から全く考えなくなったらもったいない。継続するという言葉が入るといい。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>・魅力ある部活動により多くの生徒を所属させ、部活動を通して多くの力を身につけさせる。生徒会・各種委員会を中心に生徒主体で学校生活の中の様々な行事を企画・運営し学校生活をより良くしていく態度を養う。部活動連絡協議会・生徒総会などをますます充実させ、生徒主体の学校生活が送れるよう促していく。</p>
	(下位組織レベル)	<p>活動計画</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動活性化のために、部活動連絡協議会を開催し、生徒主体で魅力ある部活動の運営を目指す。</p> <p>2) 生徒会活動・各種委員会の活性化。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 年度初めの1学期に部活動連絡協議会を開催した。部長を中心に部活動の活性化について考え、部員全体が学校の中心となる活動を行っていくことを促した。</p> <p>2) 12月に生徒総会を開催した。校則の改定や要望などをクラスから出し、議長会などを通して進めることができた。生徒主体の活動が進められ活性化を図ることができた。各種委員会も活発な活動ができた。</p>			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	[環境防災課] ・環境防災委員によるクラス及び全校集会での直接的な呼びかけを徹底し、生徒が協力的、主体的に行動できる力を身につける。 啓発事項 環境委員 ①校内及び周辺の美化 ②「とくしまGXスクール」に関する活動の推進 防災委員 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害など ②東南海地震への対応 初期避難、防災避難訓練	
	6 安全・環境教育の推進 (1) 自他の生命や健康・安全を尊重する態度を養い、事故の未然防止に努める。 (2) 災害発生時に適切な対応ができる体制作りに努める。 (3) 校内環境の美化に努め、公共心や豊かな情操を育む。	[環境防災課] 1) 清掃活動の取り組みについて肯定回答80%以上を目指す。(R4 79.5%) 2) 年間に防災避難訓練を2回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。 3) ゴミの分別・資源保護の取り組みについて肯定回答82%以上を目指す。(R4 80.0%)	[環境防災課] 1) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。(肯定回答 78.3%) 2) 防災避難訓練を6月と9月に実施した。6月の地震後の津波を想定した訓練では、3階以上に1次避難をしたのち、グラウンドへ2次避難をした。生徒も落ち着いて迅速に行動することができた。また、防災委員が要所に立つなどし、スムーズで安全な避難を促した。学校長の講話や避難経路の確認などを十分行うことができた。 その他、11月に緊急地震速報行動訓練(机下避難訓練)を実施した。校内の掲示板や各教室に構内避難経路を掲示し、災害時の避難経路の周知を図った。 3) 学校内外の清掃活動・ゴミの分別・資源保護に積極的に取り組めた。(肯定回答81.0%)	[環境防災課] (評価B) ・学校の環境美化や資源保護等の取組について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取組、節電・節水、ゴミの分別、文化祭でのゴミ箱の設置や管理等を協力的にやり遂げて校内環境が整った。また、環境委員による校外清掃にも取り組んだ。 ・消防庁、気象庁、徳島県などが主催した危機管理訓練に職員・生徒が参加した。定期的な訓練により基本事項の確認ができ、緊急事態に応じた避難経路の確認もできた。また災害に備えての心構えや非常持ち出し袋等の確認もできた。		・子どもたちが学校にいる間に何かが起こったとき、自分たちはどう動くのかシミュレーションするには公民館等との連携は大事だ。ぜひやってもらいたい。連携、信頼関係があると学校を守ってくれる。 ・防災活動は地味でも継続することが大事だ。特別な訓練をする必要はない。日という決めの評価だが、定期的な訓練をして机下避難訓練を継続していくことが一番だ。防災委員を中心にとあるので活動は十分だと思われる。たまに予告なしでやると意識が変わるので頑張してほしい。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[環境防災課] 1) 環境委員を中心にさまざまな活動を通して環境問題についての意識啓発をする。 2) 生徒会と環境委員を中心としてゴミ分別の啓発を推進する。 3) 防災委員会の活動を通して、災害時対応の知識や実践力を身につける。	[環境防災課] 1) 生徒・職員で毎日清掃作業を行う。 2) ゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を推進する。 3) 防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災意識の啓発も進める。	[環境防災課] 1) 毎日授業後、生徒・職員が校内の清掃を行い、また有志の生徒が毎朝校門前の清掃作業を行った。 2) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組んだ。「とくしまGXスクール」に掲げるゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動ではよりよい効果が出せた。 3) 防災委員会を中心に災害避難訓練を実施した。文化祭では、防災に関するポスターや掲示物を展示し、防災意識の啓発に努めた。			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
運営組織の活性化と教職員研修の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	特になし	
	7 学校の運営体制の充実 (1)教職員一人一人が学校経営の当事者意識を持ち、課題解決のために組織的に取り組む。 (2)風通しの良い職場環境づくりに努め、コンプライアンスの推進と危機管理体制の徹底を図る。	[情報教育課] 1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を、年3回実施する。	[情報教育課] 1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修は、年1回実施した。	[情報教育課] (評価B) ・研修の形では年1回しか実施できなかったが、職員朝礼等でその都度必要事項の連絡は行った。 ・研修の機会の確保が困難であったが、Microsoft Teamsの効果的な使用については、研修等を通じて紹介することができた。		[情報教育課] (評価B) ・研修は時間の確保が難しいので、来年度も研修としてではなく、必要に応じてその都度連絡をした方がよいと考えている。 ・次年度はMetaMoJi Classroomについての研修の機会を確保し、実施したいと考えている。
		[コンプライアンス委員会] 1)事件・不祥事等、時宜を捉えて全教職員に啓発や短時間研修を年間20回以上行う。外部講師(コンプライアンス推進室長)を招聘しての研修を1回は行う。 2)教職員間の報・連・相を円滑にし、教員1人が問題や悩みを抱え込まないようするとともに危機管理意識を高める。 3)業務内容の精選・改善を推進し、教職員の在校時間削減を図る。	[コンプライアンス委員会] 1)事件・不祥事等、時宜を捉えて全教職員に啓発や短時間研修を年間20回以上行った。外部講師(コンプライアンス推進室長)を招聘しての研修を1回実施した。 2)教職員間の報・連・相を円滑にし、教員1人が問題や悩みを抱え込まないようするとともに危機管理意識の向上に努めた。 3)全体的な業務内容の精選および改善には至らなかった。	[コンプライアンス委員会] (評価B) ・コンプライアンス関係は、予定通り実施することができたが、教職員の大幅な在校時間削減には至らなかった。		[コンプライアンス委員会] (評価B) ・業務の改善や簡素化を行い、在校時間削減を図る。
		[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。 3)各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることで、生徒の就学の機会の確保につなげる。	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施した。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施した。 3)各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることができた。	[保健厚生課] (評価A) ・教職員対象の救急救命講習会や健康相談会、各種奨学金に関する手続き等計画通りに実施することができた。		[保健厚生課] (評価A) ・コロナ禍による活動自粛が解消され、次年度は教職員の健康状態に留意しつつ、各種講習会や相談会をさらに充実させたい。
		[特別支援教育課] 1)教職員対象の特別支援教育に対する研修を1回以上実施する。 2)学校生活において支援の必要な生徒について校内で共通理解を図る。	[特別支援教育課] 1)2学期12月に特別支援教育研修を実施した。学校教育相談の現場からカウンセリングについて理解を深めた。 2)教科担任会、特別支援教育委員会などを10回開催し、支援の必要な生徒に対して共通理解を図り、その後の指導に生かした。	[特別支援教育課] (評価A) ・学校教育相談の現場から支援のあり方等、特別支援教育について研修を実施できた。支援の必要な生徒に対して共通理解を図ることができた。コンサルテーションにおいて臨床心理士と共通理解を深め、生徒を支援することができた。		[特別支援教育課] (評価A) ・支援を必要としている生徒に対し継続してスクールカウンセラーを活用しながら支援する。また、共通理解を図るために臨床心理士とのコンサルテーションを実施し、生徒個々に応じた丁寧な支援を行う。
		[情報教育課] 1)ICTを用いた全教職員が授業を実施できるための研修を計画し実践する。 2)Microsoft Teams、Classi、MetaMoJi Classroom等の効果的な使用例について紹介する機会を設け、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用する。	[情報教育課] 1)ICTを用いた全教職員に対する研修を2学期に実施した。 2)Microsoft Teams、Classiの効果的な使用例については、研修等を通じて紹介でき、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用できた。MetaMoJi Classroomについては、研修の機会が持てなかった。	[情報教育課] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。		[情報教育課] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。
	[コンプライアンス委員会] 1)教職員研修の充実 2)円滑なコミュニケーションの促進と風通しの良い職場環境づくり 3)ワークライフバランスの推進とメンタルヘルスの保持増進	[コンプライアンス委員会] 1)年間2回以上の推進期間及び随時適切な機会を設けて、バランスのとれた啓発・研修を行う。12月に講師を招聘して教職員対象の研修を行う。 2)危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を実施する。 3)業務内容の見直しやICT活用による作業の効率化等を行い、教職員の業務負担を軽減する。	[コンプライアンス委員会] 1)夏と冬の2回のコンプライアンス推進週間で、ラーニングを実施するとともに時宜を得た啓発等を20回以上行った。12月には計画取り教職員対象の研修を実施した。 2)新聞記事等を活用した具体的な事例を提示し、危機管理意識の向上を図った。 3)ICT機器を活用した業務改善を推進し、業務軽減の一端を担うことができた。	[コンプライアンス委員会] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。		
	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習の充実 2)教職員対象の健康相談会の実施 3)奨学金に関する情報提供の工夫	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。 3)生徒や教職員に各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報が伝わる様工夫する。	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施した。 2)教職員対象の健康相談会を学校医を招き2学期末に実施した。 3)各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることができた。	[保健厚生課] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。		
	[特別支援教育課] 1)特別支援を必要とする生徒の特性に対する対応を考えケアに努める。	[特別支援教育課] 1)教職員対象の特別支援教育について理解を深める研修会を実施する。 2)特別支援の対象となる生徒について校内で理解を深めるケース会議・教科会を実施する。 3)必要のある生徒にはスクールカウンセリングの制度を活用し、支援していく。	[特別支援教育課] 1)2学期12月に特別支援教育について研修会を実施した。 2)共通理解を図るため適宜ケース会議・教科会を開催し、支援のあり方を話し合った。 3)スクールカウンセリングを希望する生徒が有効に活用し、コンサルテーションにおいて支援の方法を話し合った。	[特別支援教育課] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[情報教育課] 1)教職員研修の充実 2)GIGAスクール構想の推進	[情報教育課] 1)ICTを用いた全教職員が授業を実施できるための研修を計画し実践する。 2)Microsoft Teams、Classi、MetaMoJi Classroom等の効果的な使用例について紹介する機会を設け、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用する。	[情報教育課] 1)ICTを用いた全教職員に対する研修を2学期に実施した。 2)Microsoft Teams、Classiの効果的な使用例については、研修等を通じて紹介でき、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用できた。MetaMoJi Classroomについては、研修の機会が持てなかった。	[情報教育課] (評価A) ・研修の機会が持てなかった。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
学校外との交流・連携やHPIによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>〔学校評価委員会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確なデータを得るためにも回収率の増加が求められる。丁寧な声かけや対応が少しでも増加につながるよう継続していく。内容についての検討も必要になるが、アンケートの結果をもとに学校運営協議会とも連携してよりよい方向へ導けるよう努力する。 <p>〔情報教育課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きホームページの更新回数の増加に努めたい。また、各担当者への個別の依頼も行ってほしいと考えている。 ・引き続き生徒と保護者への情報提供の充実を努めたい。 <p>〔国際交流課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も県内における国際交流の研修会などの案内に努め、交流活動に積極的に参加する生徒の数を増やす。また、ドイツとの姉妹校交流については、オンライン形式に加え、隔年で受け入れ等の交流も行いながら、内容をさらに充実させる。 <p>〔特別活動課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野でのボランティア活動の呼びかけをし、より多くの生徒がボランティア活動に参加できる機会を設ける。 <p>〔総務課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した活動をさらに充実させ、より多くの保護者が参加できるよう工夫する。 	
	8 地域とともにある学校づくりの推進 (1)学校評価を充実させ、地域と一体となって生徒を育成する地域とともにある学校を目指す。	<p>[学校評価委員会]</p> <p>1)保護者アンケートの回収率83%以上をめざす。(R4 79.5%) 2)学校運営協議会を年3回開催する。(R4 3回開催)</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)ホームページについて各担当箇所ごとに学期に1回以上更新する。Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を随時行う。</p> <p>[国際交流課]</p> <p>1)ドイツ姉妹校からの生徒受け入れを行う。 2)県内における国際交流の活動を周知し、積極的な参加を呼びかける。 3)本校ALT(外国語指導助手)との交流を通して、県内におけるスピーチコンテストへの積極的な参加を呼びかける。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)ボランティア活動の積極的な参加の呼びかけ。</p> <p>[総務課]</p> <p>1)新型コロナウイルス感染症による影響が見直されたことを受け、以前行っていたPTA活動をできるだけ復活させ、活性化させる。また、オンラインなどを適宜併用し、保護者等がより参加しやすい状況をつくる。 2)業務を円滑に遂行する。</p>	<p>[学校評価委員会]</p> <p>1)保護者アンケートの回収率は79.0%で昨年度から減少し、目標値には届かなかった。 2)学校運営協議会は予定通り年3回実施した。(3回目は3月中旬を予定している)</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)ホームページについては、昨年度と比較して今年度更新回数が増加した。Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信も必要に応じて行うことができた。</p> <p>[国際交流課]</p> <p>1)今年度はドイツ姉妹校からの生徒受け入れを行った。 2)四国大学主催の英語セミナーに2年生2名、3年生4名の生徒が参加した。 3)第77回徳島県高等学校英語弁論大会に1年生2名の生徒が出場した。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)各ボランティアを積極的に呼びかけ、生徒の参加を奨励した。</p> <p>[総務課]</p> <p>1)城北祭におけるPTA活動、研修部校外研修(大学視察)を復活させた。また、理事会においてZoomですべての保護者が参加できるようにした。 2)業務を円滑に遂行することができた。</p>	<p>[学校評価委員会] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施期間を3週間と延長したが、保護者の回収率増加にはつながらなかった。 ・学校運営協議会については定期的に実施し、さまざまな意見をいただくことができた。 <p>[情報教育課] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報伝達にClassiを用いることで、生徒や保護者への情報提供を適切に行えるよう日常的に活用している。 ・全体的にホームページの更新回数は増えたが、ページにより更新頻度に差がある。 <p>[国際交流課] (評価A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年ぶりにドイツ姉妹校との交流が再開し、歓迎会や授業・部活動参加、校外研修など本校生徒と積極的に交流する機会があった。 <p>[特別活動課] (評価A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内した各ボランティア活動に多くの生徒が参加することができた。 		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
		<p>[学校評価委員会]</p> <p>1)学校評価を充実させ、次年度のさらなる改善に役立てる。 2)学校運営協議会との協力体制を図る。</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)ホームページなどによる情報発信を活性化する。</p> <p>[国際交流課]</p> <p>1)ドイツ姉妹校交流の推進 2)徳島県内におけるスピーチコンテストへの参加の促進</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)ボランティア活動への積極的な参加の奨励</p> <p>[総務課]</p> <p>1)PTA活動の円滑な運営と充実・活性化 2)学校行事等における外部との連絡調整</p>	<p>[学校評価委員会]</p> <p>1)職員・生徒・保護者アンケートを11月に実施する。 2)学校運営協議会を各学期に1回開催する。</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)ホームページの更新とともに、Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を促し、学年主任やHR担任の支援を行う。</p> <p>[国際交流課]</p> <p>1)全校生徒にドイツ姉妹校交流を紹介し、できるだけ多くの生徒が積極的に参加するよう呼びかける。 2)県内におけるスピーチコンテストについて、全校生徒、教職員に周知し、積極的な参加を呼びかける。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)案内したボランティア活動案内により、多くの生徒の積極的な参加を促す。</p> <p>[総務課]</p> <p>1)PTA活動における各種連絡調整や、新たな研修等を企画する。 2)城北祭で保護者が参加しやすい運営方法を提案する。</p>	<p>[学校評価委員会]</p> <p>1)職員・生徒・保護者アンケートを11月に実施した。 2)学校運営協議会を各学期に1回(5月23日・11月20日・3月中旬予定)開催した。</p> <p>[情報教育課]</p> <p>1)Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を促し、学年主任やHR担任の支援を行うことができた。</p> <p>[国際交流課]</p> <p>1)9月にドイツ姉妹校からの生徒受け入れを行い、約1週間にわたり、本校生徒と交流を行った。 2)県内のスピーチコンテストにおいて、1年生の生徒2名が参加した。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)案内したボランティア活動に多くの生徒が参加することができた。</p> <p>[総務課]</p> <p>1)城北祭(文化祭)における保護者・職員バザー、城北祭(体育祭)における研修部売店経営、研修部校外研修(大学視察)を復活させた。5月にPTA総会、5月・11月にいきいきセミナー、6月に3学年進路説明会、10月に1・2学年進路説明会、12月に3学年部会を開催した。 2)城北祭では、今年度は全学年のPTA役員に参加していた。</p>		